

8/5	水	全国高等学校野球選手権大会開幕 (~22日)
6	木	広島平和記念日 大安
7	金	立秋
9	日	ながさき平和の日
11	火	徳島市阿波おどり(~15日) 山の日
12	水	大安
15	土	終戦記念日
16	日	京都五山送り火
17	月	大安
23	日	処暑 大安
29	土	大安
9/1	火	防災の日
4	金	大安
7	月	白露
9	水	重陽
10	木	大安

8月 シティ信金行事予定

- シティ信金写真会
8日 午前9時から 奈良西ノ京 薬師寺にて
- 地元への奉仕活動(清掃)
全店舗で実施



シティ信金協賛等行事予定

- 大阪クラシック2026
9月6~12日
当金庫本店2階大ホール(6日)ほか



秋の野を染める、やさしい黄色

オミナエシ

オミナエシは、秋の七草の一つとして古くから親しまれてきた多年草です。細かな黄色い花が集まって咲く姿は、秋風に揺れるたびにやさしい光をまとい、野や里山の景色を明るく彩ります。
名前の由来は、古語で女性を意味する「オミナ」と、圧倒するという意味の「エシ(ヘシ)」が合わさり、「女性の美しさをも圧倒する花」のオミナエシがオミナエシに変化したという説や、昔、女性は黄色い粟の飯を食べていたため「女飯」に

たとえられたことから「オミナエシ」と呼ばれるようになった説があります。見ごろは8月から9月にかけてで、お盆の頃には供花としても用いられます。
万博記念公園(吹田市)や大阪公立大学附属植物園(交野市)、京都府立植物園(京都市左京区)、神戸薬科大学薬用植物園(神戸市東灘区)で見られます。
静かに佇む黄色の花姿に、誰かを思いやる心や、さりげない優しさを重ねながら散策してみてもいかがでしょうか。

Monthly essay



少女再訪



エルメール 真珠の耳飾りの少女展」が8月21日、大阪中之島美術館で開幕する。日本のフェルメールブームに火を付けた大阪への4半世紀ぶり再訪であり、おそらく最後の旅。話題満載の展覧会になりそうである。

17世紀オランダ絵画の至宝「真珠の耳飾りの少女」が大阪市立美術館にやって来たのは2000年。1時間半並び、人の後ろの間に「少女」を見た。立ち止まることは許されなかった。一瞬だが「視線が合った」。不思議な満足感がずっと残った。

大阪単独開催だったので日本中からファンが押しかけた。絵の魅力と話題性が相まって社会現象になった。観客動員は3カ月で60万人。大阪市立美術館の金字塔である。

米ワシントン・ナショナル・ギャラリーで「フェルメール回顧展」が開かれたのは95年。当

日券を求めて夜明け前から大行列が出来、閉館時間が午後9時まで延長された。遅れること5年。日本でのフェルメールブームが大阪で生まれたのである。今回も大阪だけの催しで、貸出元のマウリッツハイス美術館の休館期間に合わせ、9月27日までの5週間という超短期開催。さらに、「海外への貸し出しはこれが最後になるだろう」との館長の言葉が紹介され、希少感、見納め感はいや増す。
大阪中之島美術館がオープンしたのは22年2月。市の財政難から着工が遅れ、構想から約40年を経ての開業だったが、漆黒の巨大直方体の建物が周囲にすっかり馴染んでいる。隣接して国立国際美術館、市立科学技術館。足を伸ばせば市立東洋陶磁美術館。『デスティネーション・ミュージアム』(旅の目的地としての美術館)への道が着々でき上がろうとしている。

6月初め、関西を拠点に活躍する現代美術家森村泰昌、やなぎみわ、ヤノベケンジの3人展に行った時、中之島美術館の展示室の大半が欧米系の人たちであることに気づいた。台風6号の接近が伝えられていたので、日本人だけさっさと帰ったのかと思ってみたが無理がある。そんな時代なのである。
フェルメールが亡くなったのは43歳。妻と11人の子ども、そして多額の負債が残された。作品が評価されたのは200年後。「人生は短く、芸術は長い」。言い古された言葉が何の抵抗もなく浮かび、胸を打つ。
「日時指定」のチケット購入がうまくいかず、当日券販売もないので「とにかく並ぶ」奥の手もない。遠ざかる「少女」との再会。同じ大阪の空の下にこの画家がいる。そう感じ続ける5週間も悪くない。負け惜しみっぽい本音でもある。(わ)